

〈授業改善推進プラン 令和5年度第6学年 国語科〉

<p><b>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年5月実施の村学力調査では、「文章を書く」内容の問題がいずれも正答率0%という結果だった。したがって、文章を書くことに課題があると考えられる。4月実施の全国学力調査でも、同様の結果となった。</li> <li>令和5年度1学期の段階では、第5学年までの既習漢字の定着率の低さが見られた。また、夏季休業明けには第6学年1学期学習の漢字も忘れてしまっていることが予想される。漢字の確実な定着に課題があると考えられる。</li> </ul>	
<p><b>2. 課題改善に向けた取組状況</b></p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>宿題をしていない場合は、休み時間や放課後に個別指導を行うことで、学習内容の習熟や定着を図る。忘れ物対策として、毎日必ず連絡帳を書かせ、前日に準備させることを指導し、コピーや文房具などを予め用意しておく。</li> <li>スモールステップによる反復学習を繰り返し、既習漢字の定着を徹底する。</li> </ul> <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>伝える相手を意識した作文指導を行う。「誰に」「どのような目的で」書くのかを最初に確認し、相手意識をもって伝えることができる力を育むことをねらう。これを、日頃の授業の振り返りなど様々な場面で行う。</li> <li>漢字の学習では、アニメーションで筆順が分かるアプリケーションを用いる。アニメーションを見ながら空書きをすることで、筆順の定着を図る。</li> </ul>	
<p><b>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</b></p> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①日々、作文の指導をする。</li> <li>②毎日の宿題等で、丁寧に漢字学習に取り組ませる。</li> </ul>	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①制作した作文や授業の振り返りでの評価。</li> <li>②日々の漢字テストやワークテストでの達成率。</li> </ul>
<p><b>4. 検証結果(成果と課題)</b></p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作文や授業の振り返り等の際に、個別に指導を行うことを繰り返すことで、相手意識を明確にもって書く力がある程度育むことができた。今後も継続した指導が必要である。</li> </ul> <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の定着には依然として課題が残る。</li> </ul>	<p><b>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「書く」単元の際には、相手意識を明確にもって書くことを指導する。また、それまでに書いた作文などからよい表現を学級で共有することで、よい表現を使おうとする意識を高める。</li> <li>日々の書字の際に、学習した漢字を意識的に使用するよう指導する。まだ、読書活動の中で語彙を増やす。</li> </ul>
<p><b>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童の姿</b></p> <p>令和5年度よりも、学習した漢字を適切に用いることができる。 多様な表現を用いて、書いたり話したりすることで、自分の思いや考えを表現することができる。</p>	

〈授業改善推進プラン 令和5年度第6学年 社会科〉

<p><b>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年5月実施の村学力調査における生活行動・学習活動調査では、「社会の出来事を知るために、新聞を読んでいる」「ニュースを見ている」「自分の食べている食品が、どこで生産されてきたかを考えることがある」「自分が歴史上の人物だったらどうしたんだろうかと考えることがある」の4つの問いに対して否定的な回答の傾向が見られた。したがって、社会科の学習を「自分事として」とらえて学習するという点において課題があると考えられる。</li> </ul>	
<p><b>2. 課題改善に向けた取組状況</b></p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>専門用語の意味を単なる知識として覚えるだけではなく、社会科見学などを通して実際に自分の目で見、分かったことなどを自分なりに工夫してまとめ、自分の言葉で表現することで、学習内容の理解を深める。</li> </ul> <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>様々な資料をカラー印刷したものや実物で取扱うとともにICTも活用することで児童の興味・関心を喚起することをねらう。</li> <li>授業の振り返りで、「自分だったら」や「自分の身の回りでは」という観点から考えることを促すことで、社会科の学習を「自分事として」とらえられるようにする。</li> </ul>	
<p><b>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</b></p> <p>＜方策＞</p> <p>①様々な資料をカラー印刷したものや実物で取扱う。</p> <p>②「自分だったら」「自分の身の回りでは」といった視点を与える。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①②授業中の児童の発言やノートの振り返りなどの評価。</p>
<p><b>4. 検証結果(成果と課題)</b></p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社会科の学習を「自分事として」とらえ、学習内容を自己の生活に生かそうとすることが増えた。</li> </ul> <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己の生活に生かそうとする姿は増えたものの、歴史や政治に関する自分の生活から遠いものに対する実感はまだ薄い。</li> </ul>	<p><b>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>すべての単元でカラー資料を多用することで、児童の興味・関心を喚起する。</li> <li>すべての単元で、自己の生活にどのようなつながるか考える時間を多く設ける。</li> </ul>
<p><b>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童の姿</b></p> <p>学習内容を「自分事として」とらえつつ、実感をもちながら自己の生活へのつながりを考えることができる。</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和5年度第6学年 算数科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

- ・令和5年5月実施の村学力調査では、「整数のなかま分け」「単分量あたりの大きさ」「多角形の内角の和の求め方を説明する」内容の問題がいずれも正答率0%という結果だった。第6学年以降の算数の学習においてもつながる内容であるため、確実に定着させることが必要となる。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容

- ・宿題をしていない場合は、休み時間や放課後に個別指導を行うことで、学習内容の習熟や定着を図る。忘れ物対策として、毎日必ず連絡帳を書かせ、前日に準備させることを指導し、コピーや文房具などを予め用意しておく。
- ・スモールステップによる反復学習を繰り返し、既習内容の定着を徹底する。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

- ・自力解決の時間を十分に確保することで、児童が自分の考えをしっかりともち、伝えることができるようにすることをねらう。
- ・既習事項も授業の中で度々取り上げることで、既習事項の確実な定着を図る。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①自力解決の時間を十分に確保する。
- ②日々の中で、既習事項を取り上げる。

<検証方法>

- ①ノート指導や発表の内容等の評価。
- ②日々の取組みやワークテストの達成率。

4. 検証結果(成果と課題)

<成果>

- ・自分の考えをしっかりともち、ノートに書いたり発表したりすることで表現することができるようになった。

<課題>

- ・図形や単位の換算など、定着に至っていない既習事項がある。

5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・どの単元でも、自力解決と発表の時間を十分に確保する。
- ・ミニテストや宿題などで、その時に学習している単元以外に関わる既習事項についても、日常的に取り組ませる。

6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童の姿

既習内容を活用し、問題解決に取り組むことができる。

〈授業改善推進プラン 令和5年度第6学年 理科〉

<p><b>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度の学力調査の結果は、校内平均正答率が88.3%で、全国平均の66.1%を大きく上回る状況である。しかしながら、「けんび鏡の使い方」の短答問題（校内平均正答率0% 全国平均正答率26.1%）、「植物の発芽と成長」の選択問題（校内平均正答率0% 全国平均正答率16.0%）に課題が見られた。学習した知識を確実に身に付け、見直しを徹底することでケアレスミスをなくすことが、今後の課題である。</li> </ul>	
<p><b>2. 課題改善に向けた取組状況</b></p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一つの考えで終わりにせず、さらに考えが広がったり深まったりするような声かけを工夫して話し合いを膨らませる。児童の考えが広がるような資料（写真、データ）をあらかじめ用意しておき、児童数の少なさを補えるようにする。</li> <li>クラス内のデータだけでなく、教科書などのデータを活用したり、教師が実施したデータを複数用意しておいたりすることでデータ数を増やし、一般化して考えられるようにする。</li> </ul> <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>論理的思考の土台となる基礎的基本的な知識や技能を確実に身に付けさせるために、各単元の最後に振り返りや復習を徹底させる。</li> <li>各単元において、既習内容を生かして問題に対する予想を自分の言葉で表現させることによって、論理的に思考することを習慣化させる。</li> </ul>	
<p><b>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</b></p> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①基礎的基本的な知識や技能を確実に身に付けさせるために、各単元の最後に振り返りや復習を徹底させる。</li> <li>②既習内容を生かして問題に対する予想を自分の言葉で表現させることによって、論理的に思考することを習慣化させる。</li> </ul>	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①単元テストにより、知識・技能分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。</li> <li>②単元テストにより、思考・判断・表現分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。</li> </ul>
<p><b>4. 検証結果(成果と課題)</b></p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各単元の最後に振り返りや復習を徹底した結果、単元テストにより、知識・技能分野、思考・判断・表現分野双方の評価がB基準（正答率70%）以上になった点は成果である。</li> <li>予想を自分の言葉で表現させることによって論理的に思考することを習慣化できた点は成果である。</li> </ul> <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>見直しを徹底するよう指導したが、ケアレスミスがゼロにならなかった点は課題である。</li> </ul>	<p><b>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小学校での既習事項を生かして未習事項も考察するような思考力を育成するとともに、ケアレスミスを撲滅できるよう見直しを徹底し集中力を高めることが留意すべきことである。</li> </ul>
<p><b>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童の姿</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>論理的な思考力を高めるとともに、ミスを許さない集中力を切らさない生徒。</li> </ul>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和5年度第6学年 外国語科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・授業中や休み時間、ALTに質問をするなど、自分から話しかけることに抵抗感をもつ傾向にある。</li><li>・ジェスチャーを使うことに抵抗感が見られる。</li></ul>	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・令和3年度未実施のため該当なし</li></ul> <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・導入時に活動の流れを明示することで、児童が見通しをもって授業に臨めるようにする。</li><li>・アクティビティやゲームを充実させることで、児童が高い意欲をもって授業に取り組むことができるようにする。</li><li>・言葉以外にもジェスチャーや視線、表情などを使ってALTとの意思の疎通をすればよいと伝えることで、ALTとのコミュニケーションを活発にできるようにする。</li></ul>	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>&lt;方策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①アクティビティやゲームを充実させる。</li><li>②ジェスチャーや視線、表情などを使ったコミュニケーションを促す声かけをする。</li></ul>	<p>&lt;検証方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①②授業中や休み時間での児童の様子の評価。</li></ul>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・アクティビティやゲームなどを通して、意欲的に取り組む児童の姿がたくさん見られた。</li></ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ALTとのコミュニケーションに関しては、まだ課題がある。間違えることを恐れて、積極的にコミュニケーションを図ることができなかった。</li></ul>	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・どの単元でも、間違えることを恐れず、自分からどんどんALTに話しかけようとする雰囲気醸成を図る。</li><li>・アクティビティやゲームを充実させる。</li></ul>
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>間違えを恐れずALTと積極的にコミュニケーションを取ろうとすることができる。</p>	

〈授業改善推進プラン 令和5年度第6学年 音楽科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

令和5年度の「学びのスタンダード授業アンケート」において「授業が好き」「学習したことをわかっている」と答えた児童は、A100%と音楽への関心が高い。昨年度は「学習したことをわかっている」という項目に関してA・B共に50%だったが、今年度は上昇しているため、この1年間で気持ちに変化があったようである。児童の積極的な気持ちを持続させられるよう授業を工夫し、取り組んでいきたい。

本年度の課題は、基礎的な知識や技能が定着しているため、「これでいい」ではなく、「知識・技能」や「思考力・判断力・表現力」生かしながら、物事を深く追求し、「こういう風に演奏したい」「もっと上手く演奏したい」という意思をもち、演奏をできるようにする。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容

「基礎的・基本的な演奏技能を習得する」とあり、その改善策として、演奏のポイントを絵や図で示して指導するとなっている。その結果、演奏情報の視覚化によって、基礎的な技能が効率よく身に付いたことが成果として挙げられている。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

歌唱分野や鑑賞分野において着眼点がユニークなことがある。また、音楽に対して「気になる」という関心をもっているため、その好奇心を生かし、楽器を使った実験のようなことを行うことがある。

また、中学生で習うような少し高度な取組をし、理解をしているため自信につながり、「もっと知りたい」につながっているようである。この取り組みを演奏する分野に生かし、物事を深く追求し豊かな音楽表現につなげていく。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

①演奏家の音源や動画を視聴し、どのように演奏しているのかをイメージする。

<検証方法>

①ワークシートや発言内容、学期ごとの振り返りアンケートの実施。

4. 検証結果(成果と課題)

<成果>

・これでいいという感覚ではなく、中学生になったらということを考えさせることで、さらに高度な知識・技能を付けたいという意識をもたせることができた。

<課題>

・自分の興味のある分野に関しては前向きな発言が多かったが、興味が薄いものや苦手意識のあるものに関しては消極的な発言が目立つようになった。

5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

・どの分野にも興味をもつよう、ワークシートの内容や板書の仕方、言葉がけの内容を工夫し、指導していく。

6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童の姿

創作・鑑賞・器楽・歌唱のそれぞれの分野への興味をもち、表現活動の面白さを体感する生徒。

〈授業改善推進プラン 令和5年度第6学年 図画工作科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度1学期アンケートでは、「図画工作の授業が好きか」という項目に関して、2名中2名が「はい」と答え、「学習したことを理解しているか」という項目に関して、2名2名が「はい」と答えている。以上の調査や授業観察の結果から、授業への興味・関心は高いといえる。学習内容の確実な定着については、授業者と児童の認識に乖離があるため、改善を図る必要がある。</li> </ul>			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>【課題】 感じ取ったことや思ったこと、考えたことなどを話したり聞いたり話し合ったりする力が不足している。</p> <p>【改善策】 児童自身が気付きを自覚できるように、形や色から受けたイメージを根拠や理由を基に話したり、話し合ったりできるように指導をする。造形的なことばの意味や役割について図示で適宜解説する。</p> <p>【評価】 造形遊びや工作を楽しむ様子が見られる反面、身の回りの現象や自他の作品などにじっくり向き合っ鑑賞すること、または考えを深めたり感じたことを話し合ったり文章にまとめる活動に対しては消極的な面が見られた。イメージや言葉が浮かんでこないことに悩む姿も見られたため、図示などの解説を継続してだけでなく、鑑賞活動を楽しむ中で生まれた感情をその場で言葉にできるような支援が必要である。</p> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>絵や立体に表す活動を楽しむことだけに注力しているため、毎回の振り返りの時間が充実するように声かけを行い、「何を発見したか?」、「どこをどのように工夫したか?」「次はどうしたいか?」などを一つ一つ一緒に考えながら書く時間を取っている。</li> </ul>			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>&lt;方策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①年間2回授業評価アンケートを実施する。</li> <li>②日々の表現及び鑑賞活動の授業観察及び授業を改善する。</li> </ul> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>&lt;検証方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析。</li> <li>②授業デザインの学期ごとの検討及び指導と評価の一体化を踏まえた次年度年間指導計画。</li> </ul> </td> </tr> </table>		<p>&lt;方策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①年間2回授業評価アンケートを実施する。</li> <li>②日々の表現及び鑑賞活動の授業観察及び授業を改善する。</li> </ul>	<p>&lt;検証方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析。</li> <li>②授業デザインの学期ごとの検討及び指導と評価の一体化を踏まえた次年度年間指導計画。</li> </ul>
<p>&lt;方策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①年間2回授業評価アンケートを実施する。</li> <li>②日々の表現及び鑑賞活動の授業観察及び授業を改善する。</li> </ul>	<p>&lt;検証方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析。</li> <li>②授業デザインの学期ごとの検討及び指導と評価の一体化を踏まえた次年度年間指導計画。</li> </ul>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の表現したいことを形にするために、既習事項を活用して試行錯誤を繰り返しながら、実践を重ねることができた。</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>完成図を想像して必要な工程を考えたり、時間配分をしたりして、見通しを持って活動する力が伸びなかったことが課題である。</li> <li>豊かな発想や創造的な技能は低くないはずだが、活動に集中できずに脱線する場面が多く、作業時間に対しての進捗がよくなかったため、規律づくりをやり直す必要があることが課題である。</li> </ul>	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>表現や鑑賞の活動に取り組む中で、つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培うために、実態に応じた弾力的な学習を展開していく必要がある。発達の特性や実態に応じた題材を常に検討しながら、他教科の教員や学年担任とも連携して、それぞれの学年において育成する資質・能力を効果的に身に付けられるように指導計画を常に修正していくことが大切である。</li> <li>与えられた時間、条件の中でイメージを形にできるよう見通しをもって活動できるような規律づくりや声かけをしていく必要がある。</li> </ul>		
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>見通しをもって主体的に課題解決に取り組める生徒。</p>			

〈授業改善推進プラン 令和5年度第6学年 体育科〉

<p><b>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度1学期授業評価アンケートでは、「授業が好きか」「学習したことを理解しているか」「授業は分かりやすいか」「質問すると、分かりやすく答えてくれるか」という項目に関して、2名中2名が肯定的な回答をしている。しかし、自信をもって「はい」と回答していない部分もあることを分析すると、運動有能感の高低に比例していると考えられる。</li> <li>新体力テストでは、全国平均を下回る種目が散見される。体力の向上を図るとともに、運動習慣の確立が必要である。</li> <li>授業の観察から、運動課題への不安が強いと取り組むまでに時間がかかる。苦手な児童ほど試行回数が減り、成長速度が遅れてしまうことが課題である。</li> </ul>	
<p><b>2. 課題改善に向けた取組状況</b></p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>【課題】</p> <p>①忘れ物が非常に多いなど、関心・意欲・態度に課題がある。</p> <p>【改善策】</p> <p>①苦手な種目をやりたくないために忘れ物をするのか、などを観察・分析し、少しでも意欲をもてるよう、ユニバーサルデザインの観点からできることに取り組めるようにする。</p> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>単元に応じた補強運動を設定し、年間を通して体力の向上に努めている。</li> <li>学習カードやICT機器を活用し、運動のポイントや自己の技能を視覚的に確認できるようにしている。</li> <li>個々の体力や技能に応じた課題・ルールを設定し、児童が自己の目標をもって取り組むことができるようにしている。運動の特性に応じた楽しさを味わい、実践する意欲を育てている。</li> </ul>	
<p><b>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</b></p> <p>＜方策＞</p> <p>①年間2回授業評価アンケートを実施する。</p> <p>②授業内で実技の発表をさせる。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析。</p> <p>②授業内の実技発表の分析。</p>
<p><b>4. 検証結果(成果と課題)</b></p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業評価アンケートの結果から、全ての項目で一番高い評価を得ることができた。授業の様子からも、積極的に取り組もうとする姿勢が増えた。</li> </ul> <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運動の楽しさをより味わい、積極的に取り組む態度を養うことと、基礎体力の向上が必要である。</li> </ul>	<p><b>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運動技能の差が激しく、集団の中で全員が満足し、成長できる授業を目指して改善していきたい。特に、球技はルールの緩和や用具の検討などが重要である。</li> </ul>
<p><b>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童の姿</b></p> <p>児童(令和5年度は生徒)自身が心と体を一体として捉え、積極的に豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を伸ばしている。</p>	

〈授業改善推進プラン 令和5年度第6学年 家庭科〉

<p><b>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</b></p> <p>令和5年度1学期の授業評価アンケートでは、「家庭科の授業が好きか」という項目に関して、2名中2名が「はい」と答え、「学習したことを理解しているか」という項目に関しては、2名中2名が「はい」と答えている。以上の調査や普段の授業中の様子から、授業への興味関心は高いことが分かる。また、2名とも基礎的な知識の定着は見られるが、生活と結び付けながら考えを深めたり、自身の意見や考えを具体的に言葉や文章として表現したりすることに課題が見られる。</p>	
<p><b>2. 課題改善に向けた取組状況</b></p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年度未実施のため該当なし</li> </ul> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ICT機器の活用や、実習・実験など体験的な活動を多く取り入れられるように工夫し、内容の理解を深められるような授業を展開する。</li> <li>実習や製作の記録課題、毎授業の振り返りのワークシートを用いて、自身の意見や考えを具体的に表現する機会を増やしている。</li> </ul>	
<p><b>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</b></p> <p>&lt;方策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①自身の生活を振り返る時間を設け、ICT機器の活用や体験的な活動を取り入れながら、考えを深められるような授業構築を行う。</li> <li>②既習事項を活用しながら、具体的に表現できるように個に応じた適切な支援を行う。</li> </ul>	<p>&lt;検証方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①年間3回の授業評価アンケート、実習や製作の記録課題。</li> <li>②実習や製作の記録課題、ワークシート、題材毎の単元テスト。</li> </ul>
<p><b>4. 検証結果(成果と課題)</b></p> <p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①調理実習などの体験的な活動を通して、学習をまとめることで自身の考えを深めることができた。(実習記録等より)</li> <li>②授業や教科書で使用されている用語を用いて文章を書こうとする意識が少し高まった。(ワークシート記述より)</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項をもとに自身の意見や考えをまとめ、相手に分かりやすく伝えることに課題がある。</li> </ul>	<p><b>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項をもとに、記録課題や授業のワークシートを使用しながら自身の意見や考えをまとめる機会を増やす。また、実践的で体験的な授業の時間を確保し、記録する機会を増やす。</li> </ul>
<p><b>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童の姿</b></p> <p>既習事項を活用して、自分の意見や考えを相手に分かりやすく伝えられる生徒。</p>	